

キリスト教学研究室紀要

第 5 号

—論文—

- 現代日本における宗教哲学の構築をめざして 芦名 定道 (1)
- オリゲネス『ローマ書注解』における自由意志と心の刷新 須藤 英幸 (21)
- カセット効果と訳語論争
—日本語訳語「神」を中心に— 金 香花 (37)
- キルケゴールにおける救済論の問題
—『哲学的断片』『間奏曲』を手がかりにして— 谷塚 巖 (49)
- フロレンスキイにおける「単純さ」の神学的意義 ブラジミロブ イボウ (61)
- H.G. ガダマーの解釈学における〈有限性〉の概念 岡田 勇督 (77)

—研究ノート—

- 賀川豊彦「の」問題 波勢 邦生 (91)

—書評—

- 宮谷尚実『ハーマンと「へりくだり」の言語—その思想と形式—』 谷塚 巖 (97)

—研究動向—

- 学会報告：福音主義神学協会 岡田 勇督 (107)
- 学会報告：国際シュライアマハー学会 岡田 勇督 (117)

あとがき (129)

2017年3月
京都大学キリスト教学研究室

2016年度・第二演習の記録

<前期>

- 4月14日：芦名定道「オリエンテーション」、書評：T・ピーターズ、R・J・ラッセル、M・ヴェルカー編『死者の復活——神学的・科学的論考集』（日本キリスト教団出版局、2016年）。
- 5月14日：金香花「等価理解から聖書翻訳理解」
南裕貴子「エキュメニカル運動とフライターク」
- 6月 2日：張旋「R・R・リューサーのフェミニスト神学におけるマリアをめぐる考察」
谷塚巖「キルケゴールにおけるレッシング問題—「復活」の理解をめぐる」
- 6月 9日：洪伊杓「朝鮮伝道論をめぐる海老名弾正『内地・外地』認識—柏木義円・吉野作造との比較を中心に—」
- 6月23日：岡田勇督「『真理〈対〉方法』？——ガダマーの正しい理解と解釈学の将来のために」
ブラジミロブ・イボウ「極東におけるキリスト教の過去と現在——アイヌとニヴフを中心に」
- 6月30日：平出貴大「前期P・ティリッヒにおける「突破」について」
- 7月 7日：渡邊蘭子「後期アウグスティヌスの救済論——『霊と文字』における義認と聖化を中心に」
- 7月14日：金香花「訳語論争と動的等価理論」
- 7月15日：森川甫「カルヴァン『共観福音書註解』と『キリスト教綱要』 マタイ26：26「聖餐論」形成」
- 7月28日：橘川玲奈「ロックの宗教寛容思想の推移」
波勢邦生「賀川豊彦の終末論」
- 8月 6日：張舒青「『生命』月刊とキリスト教新思潮」

<夏期・大学院生研究発表会>

- 9月1日・2日：日本基督教学会・学術大会（9月13日～14日）、日本宗教学会・学術大会（9月9日～11日）における個人研究発表予定者による予行演習。

<後期>

- 10月 4日：芦名定道「オリエンテーション」、書評：金子晴勇『キリスト教人間学入門——歴史・課題・将来』（教文館、2016年）。
- 10月25日：金香花「訳語論争の先行研究」
- 11月 1日：張旋「ローズマリー・ラトフォード・リューサーの共生神学——支配と差別を越えて」
- 11月 8日：谷塚巖「キルケゴール研究にリクールの言語理解を取り入れる意義について」
- 11月15日：南裕貴子「ヴァルター・フタイタークにおける「伝道の神学」と伝道活動」
- 11月22日：橘川玲奈「ロックの宗教寛容論」
洪伊杓「海老名弾正の会衆主義と吉野作造のデモクラシー」
- 11月25日：森川甫「カルヴァン『共観福音書註解』における贖い主イエス・キリスト——「カルヴァンはカルヴィニストか？」に関連して——」
- 11月29日：張舒青「反キリスト教運動に対する中国キリスト者の回答——月刊『生命』を中心に」
渡邊蘭子「アウグスティヌスにおける現世の恩恵——ローマ書7章後半の解釈をめぐって」
- 12月 6日：波勢邦生「賀川豊彦の死後生観」
- 12月20日：ブラジミロブ・イボウ「フロレンスキイの宗教思想における「単純さ」を考察する」
- 1 月10日：金香花「カセット効果と訳語論争——日本語訳語「神」の場合——」
平出貴大「中期ティリッヒの「人間論」——研究の可能性と方向付け——」

<春期・大学院生研究発表会>

- 3月14日・22日：日本基督教学会・近畿支部会（3月27日）における個人研究発表予定者による予行演習。

あとがき

◆『キリスト教学研究室紀要』第5号をお届けいたします。京都大学キリスト教学専修（研究室）刊行の「研究室紀要」も、2013年度の創刊から、今回で第5号を迎えました。紀要第5号を無事に刊行することができたことについて、執筆者、そして編集担当者に心から感謝を申し上げます。

◆京都大学のキリスト教学研究室は、教員と大学院生を中心に構成された研究者の研究共同体として運営されているが、そこで取り込まれる研究テーマは多岐にわたっている。構成員が実際にどのような研究を行っているかは、本号に収録された「2016年度・第二演習の記録」に記載された通りである。

◆この「研究室紀要」は、キリスト教学研究室の研究内容を広く公開するとともに、所属の大学院生に論文などの執筆機会を提供することを目的としている。それは、学問世界においてすでに広く浸透している成果主義という現実に対応するものであるが、近年、このことと共に目立つのが、論文などを研究者倫理の問題であり、大学でも厳しい対応が求められている。こうした点を踏まえるならば、本紀要においても、査読体制を確立することが必要になるであろう。これについては、2017年度以降の検討課題となるが、当面は、大学院生の研究論文、研究ノート、書評に加え、教員（常勤と非常勤）による研究論文を掲載することによって、研究論集としての十分な水準が確保されるよう心がけたい。

◆2016年度の学部卒業生と修士課程修了者は、以下の通りである。今後の活躍を期待いたします。

卒業論文：立川瑛世 「旧約聖書における動物の「支配」とは何か」

修士論文：橘川玲奈 「ジョン・ロックの宗教寛容論」

渡邊蘭子 「アウグスティヌスにおける現世の恩恵—ローマ書7章後半の解釈をめぐって—」

波勢邦生 「賀川豊彦の死後生観」

張舒青 「反キリスト教運動に対する中国キリスト者の回答——月刊『生命』を中心に」

◆2016年度の課程博士・学位授者は次の方である。

岩井謙太郎 「シュヴァイツァーにおける「生への畏敬」の倫理—宗教、哲学及び実践を媒介する倫理としての視点からの接近—」

◆この「あとがき」の場を借りて、最近のキリスト教研究室出身者の動向についてお知らせしたい。

小柳敦史氏：2017年4月に、沼津工業高等専門学校より、北海学園大学へ転勤。

◆本紀要は、研究室のホームページ、あるいは京都大学学術情報リポジトリにおける公開を中心としており、基本的には電子ジャーナルとして企画されている。一定部数の印刷製本も行われるが、それは必要最小限のものとなる。電子ジャーナルとすることによって、キリスト教学研究室の研究活動が研究室外の方々に広く知っていただけるならば、幸いである。

2017年3月

キリスト教学専修・教授
芦名定道

The Annual Report on Christian Studies

V

CONTENTS

Articles

- Toward a Philosophy of Religion in Contemporary Japan ASHINA Sadamichi (1)
- Free Will and Renovation of the Heart in Origen's *Commentarium in Epistolam S. Pauli ad Romanos* SUDO Hideyuki (21)
- 'cassete effecton' and the Term Question
- focus on 'kami', the word translated into Japanese - JIN Xianghua (37)
- How Kierkegaard thematizes Soteriology:
The Question of Interlude in *Philosophical Fragments* TANIZUKA Iwao (49)
- On the theological meaning of "simplicity" in Florensky VLADIMIROV Ivo (61)
- The Concept of Finitude in Gadamer's Hermeneutics OKADA Yusuke (77)

Note

- Introduction to the problem of Toyohiko Kagawa HASE Kunio (91)

Book Review

- Naomi Miyatani, *Hamanns Sprache der Kondeszendenz* TANIZUKA Iwao (97)

Research Trends

- Conference Report: Evangelical Theological Society OKADA Yusuke (107)
- Conference Report: Internationaler Schleiermacher-Kongress OKADA Yusuke (117)

- Afterword (129)

March, 2017

Faculty of Letters, Kyoto Univeristy, Department of Christian Studies
Kyoto Japan